

法華寺だより



節分会・星祭り法会

福招運開

節分は、冬と春との境目。ただし、暦の上での話。暖冬とはいえず北国ではもう暫く冬真っ盛り。

その寒さを吹き飛ばす「福は内、福は内」の声が響くのが節分。当山では、「身体健全・家内安全・闘病平癒・商売繁盛・除災得幸・学業成就・心願成就」等を祈願する法要と「星祭り祈禱」を管内諸寺住職等を招いて執り行います。

法要の後、「福豆まき」も実施します。どうぞ皆様安全に福をお受取ください。

七難即滅七福即生
南無妙法蓮華經

日蓮宗のお経は
方便品
ほうべんぼん
その一

に じせそん じゅうさんまいあんじょうにき
爾時世尊 従三昧 安詳而起
ごうしゃりほつしよぶつちえ じんじんむりよう
告舍利弗 諸仏智慧 甚深無量
ごちえもんなんげなんにゆういつさいしよもん
其智慧門 難解難入 一切声聞
ひやくしぶつしよいしやが ぶつぞうしんごん
辟支仏 所以者何 仏曾親近
百千万億 無数諸仏 尽行諸仏
無量道法 勇猛精進 名称普聞

【現代語訳意識】
お釈迦様は瞑想を終えられ静かにお立ちになり弟子に告げられた。仏（私）の智慧は非常に深くはかりしれない。その智慧に導く門は開かれにくく、小乗の者には知ることが出来ない境地なのです。私は、その昔数知れない仏達のそばに仕え、その教えを実践し強い意志を持って実践しました。それで名声がこうして広く伝わっているのです。

知っていますか？
この言葉の意味

『方便』（ほうべん）
便宜的な方法を以て、人々の資質に応じて教えを説く

『三昧』（さんまい）
心を集中した瞑想状態

『舍利弗』（しゃりほつ）
智慧第一といわれる弟子

毘沙門天とは

一月の法会では、毘沙門天をお祀りしています。仏法を守護し、福德を授けるとされます。夜叉（元は悪鬼）を率いて北方を守護する神で、軍神ともあがめられる。元はインドのヒンズー教の神の一人。更に七福神の一人としても知られています。多聞天とも



『声聞』（しょうもん） 生きか
仏の教えを聞いて悟ったと思っ
ている者。阿羅漢とも

『辟支仏』（ひやくしぶつ）
仏の教えを聞かず自ら悟った と思っ
ている者、縁覚とも

『仏曾』（ぶつぞう）
お釈迦様が遙かな昔、仏さまの世界で仕えた仏様達の意味
合掌

ご案内

二月
三日 節分析禱会・星祭り
十五日
三月
十三日 婦人会総会
二十日 彼岸会法要

心といのちの相談所
老若男女幾つになっても悩
みや心配事の絶えないも
の
……ご来所やお電話を……



今月の聖語

三十三の厄は転じて
わざわいてん

三十三の幸いと
さいわ

ならせ給ふべし
たま

【厄、転じて幸いとなる】
人生に苦難という節があるから、辛くとも大きく成長出来るのでは。
「厄は役立ちの役。そして飛躍の躍」に通じます。
【初一念】が大切です
「四条金吾殿女房御返事」

日蓮聖人御遺文
より

覚書 一月

元旦 新年祝祷会
四日より 新年棚経
十五日 毘沙門会・初お講
二十四日 帯刑教誨



一 休 み

●「日蓮宗信行読本」より（拾い読み）●
第六章 生活を導く日蓮聖人のことば

6、御みやづかいを
法華経とおぼしめせ その2

誕生が「四苦（生老病死）」の始まりであり、苦しみばかりの一生ならば、いつそ何もかも捨てて死後の世界に安楽を求めますか？「死ねば仏になれる」ものでしょうか？
しかし、簡単に死ぬことは出来ませんし、死後直ぐ仏になれるわけでもないと思います。

ご奉仕に感謝

☆布薩会と婦人会様 法会等の諸準備ご苦勞様です
☆☆☆☆

法華経名句 私撰

（勸持品第十三）

為説是經故 忍此諸難事
我不愛身命 但惜無上道

松本慈恵師の解説参照

この経を説くために困難な多くの事にも堪え忍ぶ。私は自分の身命を愛するのではなく、ただ無上道を惜しむ。
どんな難が降りかかってでも法のために命をかけてでも弘めましょう
他に「不惜身命」も



日蓮聖人は、「この現実世界から逃げ出さず、自分たちにとつて素晴らしい世界になるよう努めることです」と説いています。私達が「生きる苦しみ」と思うのは、この命をこの世だけと思つているところに間違いがある。確かに私達は、「今、現在」に生きているが、巨視的に考えると“過去・現在・未来”という時間の流れの中に生きています。この自分の命は、過去から未来へ続く時間軸の中の現在なのです。それだけに現在の命の営みが大切なのです。未来の世に仏があるならば、現世の人の心に仏の種が有るのでしよう。その種を育てるために努めましょう

参照・引用

- ※日蓮聖人聖語カレンダー
- ※「日蓮宗のお経」
- ※「法華経名句辞典」松本慈恵
- ※日蓮宗新聞 その他

編集後記

十二月初めの日没は午後四時前でした◆春分の頃は午後五時前で太陽の出ている時間は一時間ほど延びました◆延びた昼間の時間をどの様に利用していますかなどはやばなことかも◆昼間太陽の熱で雪の表面が溶け、夜のしばれで冷やされ◆これの繰り返して人が乗っても壊れない「かた雪」の雪原が出来るのもこれから◆◆◆
◆山崎記◆